

特集 利用者から見た左京図書館の40年 —座談会—

左京図書館は今年で開館40年。図書館では様々な記念行事が開催されています。けやきでもこの機会に左京図書館設立の頃から現在に至るまでを振り返ろうと、事務局メンバーで座談会を開きました。図書館設立や移転の経緯とともにお伝えします。

座談会

2018年9月28日 左京合同福祉センター 3階会議室

出席：伊藤、岩崎、川端、北園、島崎、永井、吉政

●左京図書館設立の頃

左京図書館の前身は1978年に開館した社会教育会館左京分館です。その後1981年に京都市左京図書館として発足、1999年に現在地に移転しました。

この旧図書館は高野交差点の南西、高野保育園と高野団地の間にありました（現在は民間マンションが建つ）。ここは1975年に閉鎖した旧鐘淵紡績京都工場の跡地の一画です。鐘紡宿舍を改装した高野福祉施設合同会館内で、鐘紡の従業

員用の大浴場だった所に図書館がありました。鐘紡の跡地の多くは1982年に完成した大規模な公団住宅となりました。入居開始当時は子育て世代も多く、近隣住民には思い出のある図書館です。

島崎：私は子どもの頃、岡崎の京都府立図書館が近く、その児童室を利用していました。1970年前後のことです。図書館といえばそこしかなく。

永井：府立図書館を日常的に子ども時代に利用できたのは幸運でしたね。府立図書館の分館が上京区（1951～1976）中京区（1957～2001）と伏見区（1950～1988）にはありましたが。

島崎：左京図書館設立以前の左京区の、特に子どもの本の事情はどうだったのでしょうか。川端さん、修学院子ども文庫は1974年の設立でしたね。

川端：子どもの本はいろいろあったんですが、子どもたちには届いていない、と母親が感じ始めていた、と思います。多分京都じゅうの。全国でも、きっと。修学院では、

たまたま地域で役立てて！と提供された350冊の児童書、それで始まった「親子読書会」。京都市には図書館がなく、図書館というものがあることも知らなくて、本の借りられるのは府立図書館と京都市社会教育会館、借りに行くには遠いし、行っても本が少ない。社会教育会館は島原口でした。下京区です。東京には既に子ども文庫が。そして石井桃子さんの『子どもの図書館』（岩波新書 1965年）。

永井：大阪でも中川徳子さん（今は京都市在住で、けやき会員）の雨の日文庫。

川端：ええ。社会教育会館の巡回貸出が修学院小学校に来ていて、その利用者として右京の里子ども文庫からの「図書費増額」の請願署名に参加し、それが文庫連絡会の結成に繋がっていく。文庫が、文庫連絡会が生まれていく動きは、話せば長くなるし、今日のテーマから外れますね。左京図書館（はじめは社会教育会館左京分館）が出来る前の運動については修学院子ども文庫五周年記念文集「文庫はすてきな本のくに」（1978年）に土肥道子さんの「市の図書施設（社会教育会館左京分館）が出来るまでの運動から」という詳しい報告があります。

岩崎：1970年～80年代は全国的に公共図書館設立の機運が高まった頃です。70年代が黄金期、80年代後半になると行政改革により設立数は減って行きます。

北園：左京分館が出来た時、子どもの本はどれくらい入っていたのでしょうか。

永井：上述の「市の図書施設（社会教育会館左京分館）が出来るまでの運動から」によると、開館直前の社会教育会館との話し合いの報告として「当初一万七百冊で出発、二年計画で二万冊にする」「全体の60%を児童書、他を成人向け」とありますね。

島崎：子どもの本の割合が多かったのですね。

永井：1999年の移転時にこの割合を「標準的な蔵書構成にする」と聞きました。

島崎：年表によると分館開館の約3年後には京都市左京図書館として発足していますね。

永井：1980年に京都市図書館条例が制定され、翌1981年3月に財団法人京都市社会教育振興財団が設立、4月に左

左京図書館関連年表

年月日	主なできごと
1978.6.27	社会教育会館の左京分館として開館
1980.12.8	京都市図書館条例制定
1981.3.16	財団法人京都市社会教育振興財団設立
1981.4.1	京都市左京図書館として発足
1999.5.14	現在の地に移転開館
2000.5.15	祝日・夜間開館実施（地域館初）
2001.11.7	「京・ライブラリーネット」全館オンライン化完了
2006.1月	全館でインターネット予約開始
2014.4月	地域館の第2・第4水曜休館廃止
2014.6月	全館で9時30分開館実施

左京図書館提供の「左京図書館略年表」より抜粋

京図書館はじめ中央、山科、下京、南図書館、12月に北図書館が開館。翌1982年に醍醐、右京、1983年には東山図書館の開館と続きます。

川端：財団委託ではない、京都市直営の市立図書館を！という運動もしましたが。財団委託の事は難しかった。

●旧左京図書館を利用して

吉政：高野の団地に引っ越してきて近くに図書館があるのでとても便利でした。幼児を図書館に置いたままイズミヤに買い物に行ったり。

島崎：そんなことができた時代でしたね。

吉政：そばの児童館から子どもが図書館にどっと入ったり出たり。

島崎：細長いフロアで。

永井：まだブラウン式の貸出でした。公共図書館が充実している地域から団地に引っ越してきた人が「団地付属の図書館」と思った、というエピソードがあるんですよ。271㎡と京都市の図書館の平均の半分の広さしかなく小規模だったので、公共図書館とは思えなかったようです。

島崎：書庫もなかったそうで、開架で並んでいたのが全蔵

書だったと後で知りました。移転前年の数字ですが、蔵書数は4万6千冊ほど（現在は7万1千冊）。

北園：その頃岩倉在住だったので、図書館がなかった岩倉の仲間と左京図書館で団体貸出サービスを受けていました。蔵書数が豊富とは言えない中、100冊借りて大丈夫かなと思ったことがあります。

吉政：1980年代初めですが、子どもの友だちで月に100冊読んでいた子がいましたよ。私にとっては、本が借りられる場所があるのが驚きでした。そして、リクエストした本が購入してもらえるんです。本は借りてもいいんだと。

永井：京都の人は、本は買うものだ、と考える人が多かったように思います。

伊藤：今もそういう声を聞くことがあります。

川端：借りた本は期限があるから落ち着いて読めない、という人もいますね。

島崎：それでも左京図書館は当時も利用率の高い図書館でしたね。

吉政：本に関わるイベントが図書館であることも経験がなかったので、ワクワクしていました。

永井：職員によるおたのしみ会などの他に、ボランティアで関わる方による外国絵本に親しむ会も1991年から移転まで続いていましたね。図書館が手狭なことから、おたのしみ会は福祉施設合同会館内の他の施設の部屋で行われていました。

●現在地への移転開館

1997年夏に左京図書館を含む左京福祉合同センターが移転新築されると近隣住民に説明会がありました。

せっかく新築されるのなら、利用者の要望を反映してほしいと左京図書館利用者有志で「新左京図書館を考える会」を10月に設立。学習会でより良い図書館のあり方を学びつつ、京都市に対して情報公開を求めました。

さらに市民の声を集めて市長宛に署名を添えて要望書を、中央図書館にも要望書を提出。その後も学習会や利用者アンケート、図書館との話し合いを重ね、ハード、ソフト両面の要望を伝えました。また、完成後も図書館と協力

し市民みんなの図書館を目指して活動しようと、利用者をはじめ広く市民に呼びかけました。

フロア面積など叶わぬ要望もありましたが、図書館側の要望への理解も深まり、1年半の活動を経て利用者・市民と図書館が一体となった図書館作りを実現することができました。

要望のうちの、子ども向け行事へのボランティア受け入れや図書館友の会として今後も協力関係を続けることも実現し、1999年5月の左京図書館移転開館に合わせて「新左京図書館を考える会」は発展解消。「図書館友の会けやき」を結成することになりました。

島崎：移転開館の話が持ち上がった時、なんとか利用者の声を新図書館に反映してほしいと思いましたよね。その1年半後に利用者の声の、全てではないにしろ可能なことを取り入れた図書館が出来、友の会設立にも漕ぎ着けました。私たち、左京図書館を良い図書館にしたいという利用者也、それを受け止めた行政マンも、頑張った結果ですね。

永井：利用者の要望が受け入れられ、書架の高さや車椅子が方向転換できる書架間隔、絵本コーナーの配置やアレルギーの子どもに配慮したコルク床などが新左京図書館に取り入れられました。また、開館時間の延長やコンピュータシステムの導入・相互貸借などの要望は、その後、京都市図書館全体の取り組みとなって実現しました。京都市の図書館にとっては行政が市民の声を聞くパブリックコメントの走り、転換点となりました。

北園：当時私は、できたばかりの岩倉図書館（1995年開館）を利用していました。新しい図書館というだけでうれしかったのですが、新左京図書館が出来る時には地域の皆さんの努力で、利用者の意見がいくつかでも反映されたことは画期的だと思います。

島崎：話し合いの大切さを感じます。何度も話し合うことで、お互いの立場も理解できるようになって、利用者ならではの視点からの要望について、できることはやる、という行政の動きに繋がったと思います。



夏の夜のおはなし会

8月10日

永井：開館以降の運営でも、けやきの要望によって大きな変化がありました。赤ちゃんが図書館に受け入れられるようになったこと。利用者も図書館も図書館に赤ちゃんが来ることが当たり前というように考えが変わりましたね。

伊藤：赤ちゃんを心広く受け入れるようになったのが素晴らしいという声を聞きます。

島崎：自画自賛になりますが、けやきが友の会として果たした役割は大きいと。

永井：当時は司書さんだけでは担えなかった試みを、ボランティアが協力することによって数々実現できましたね。特に大人向け行事ができたこと。

島崎：映画上映会を手始めに、大人のための語りを楽しむ会や講演会、原画展など。

永井：ここ19年の間、友の会として様々な行事や活動を企画提案し、実施に協力してきました。それらの活動の中で聞いた利用者の声を図書館に届けることができています。私たち、ボランティアになら話しかけやすいと届いた声。それを図書館に伝えることも友の会活動の大きな役割だと思います。

島崎：駆け足で40年を振り返りましたが、左京図書館がなかった頃のお話を伺って、身近に図書館が存在することの大切さを改めて感じました。左京図書館が誰もが使いやすい図書館としてさらに発展するよう、これからもけやきの活動を続けていきたいですね。

左京図書館開館40周年記念事業として「夏の夜のおはなし会」が、8月10日に閉館後の図書館で開かれました。お知らせのポスターやチラシには、暗闇にろうそくが浮かび上がって「閉館後の夜の図書館で、怖～いおはなし、いかがですか…」と誘い文句があり、怖さをただよわせていました。

当日は30名ほどの参加者があり、午後7時45分に図書館の入口が開けられました。館内は薄暗く、手形のついたお札がたくさん貼られ、床に置かれた行灯にも不気味な手形が浮き出ており、いつもの図書館とは思えません。怖いおはなし会の雰囲気もうまく作られていました。後から聞くと、閉館からおはなし会までの15分で準備をするのは大忙しだったとか。

おはなし会は、いつも仏壇にある”おりん”をチーン、チーンと静かに鳴らして始まりました。

はじめに迫力ある絵の「のつべらぼう」の絵本がよまれ、そのあと怖いおはなしが4話語られました。日本の昔話「化け物を一口」、松岡享子作の「おばけ学校の三人の生徒」は図書館友の会けやきのメンバーが語り、小泉八雲の怪談「幽霊滝の伝説」、松谷みよ子文の日本の昔話「茂吉のねこ」は司書さんの語りでした。

どこか懐かしかったり、怖いというより面白かったり、結末に息をのんだり、子どもから大人までを配慮したプログラムで、参加者たちはそれぞれに怖～いを楽しんだ「夏の夜のおはなし会」となりました。

(奥坂)

けやき
の
本棚

No. 57

とっときのとっかえっこ

ウィットマン文 ガンダーシーマー絵
谷川俊太郎訳 童話館 1995年

赤ちゃんの頃からネリーの面倒をみていた

お隣のバーソロミューおじさん。二人は、ハムエッグと呼ばれるほど、毎日一緒に過ごす、そのうちネリーは大きくなり、バーソロミューは年をとった。ある日、転んで病院に運ばれ、車椅子に乗って帰ってくるバーソロミュー……。老人と子供の友情を描いた心温まる一冊です。

(左京区・小森里子)

TOPICS

ここに本の種を蒔く

—少年鑑別所・ブックトークの試み—

京都市左京図書館司書 神田千砂

「でもお話をしてあげる。そのかわりすごく静かにしてなきゃだめよ」（中略）キヴリンは即興で物語をつくりながら話をつづけ、奇妙なことに自分までその話になぐさめられた。（コニー・ウィリス著『ドゥームズディブ・ブック』）

極限の状態ですら死の恐怖に脅える幼い少女を慰めるために、主人公は物語を作り、語りました。その物語に自分も救われる、という印象的な場面ですが、「物語」ひいては「人間の創造力」は、様々な場面で様々な意味で人間を助けてくれるものだと思います。全ての人に、特に心の柔らかい子どもたちに、拒否反応なく「本」を読むための「スキル」を持って欲しい、と図書館は考えています。

そのために、左京図書館では子どもたちが本と出会うための様々な出張行事を行っています。読み聞かせ、ブックトーク、ビブリオバトル、ストーリーテリング。ただし、押しかけるわけにはいけないので、呼ばれなければ行けません。学校からは依頼があるのですが、他の団体のニーズも掘り起こさねば…！と営業の準備をしていたところ、「京都少年鑑別所」から舞踏会の招待状が…！

子どもたちの更生のための施設で本の行事を行うことはとても有効で、例えば広島県の図書館では大変熱心に取り組んでおられ、成果も発表されています。その広島から異動された所長さんが、「京都でも同じ行事を」ということ

で同じ左京区にある左京図書館にお声を掛けてくださったそうです。ありがとうございます！喜んで！

と二つ返事で、2018年4月23日、男子用と女子用のプログラムを持って、少年鑑別所に伺いました。準備期間が1週間だったこと、双方にとって初めての試みであること、聞き手の年齢に幅があること、殺伐とした本はNGだったことなど、様々な壁に対応するために、テーマは割と無難に「冒険」。活字に不慣れな子どもも考慮して、マンガや写真集、絵本もふんだんに取り入れました。慣れない場所で、周りに大人も大勢いて、という環境では仕方なく、かもしれませんが、男子も女子も集中してくれたようです。声を上げて笑ってくれたり、身を乗り出して見られたり、演技手としては最高のご褒美をもらいました。紹介した本を少年鑑別所名義で貸出し、図書コーナーに置いてもらったので、興味を持った本はそのまま手に取ってくれたとのこと。写真集が人気だったそうです。

7月19日には2回目のブックトーク「仕事」を実施し、同様に好評を戴きました。

あつという間の30分、あつという間に忘れてしまうかも知れど、「なんかおもしろかったなあ」と思ってくれて、「そういえばあんな本あったなあ」といつか思い出してくれたなら、こんなに嬉しいことはありません。子どもの心に小さな「本の種」を蒔く、そんな行事にしたい、これからも種を蒔き続けたいと考えています。そしていつか、かれらの心に小さな花が咲くことがあれば、その花がかれらの人生の灯となれば、図書館の面目躍如です。

光をはこぶ娘

O・R・メリング作 井辻朱美訳 講談社 2002年

母がいない主人公ダーナは、実は妖精の力を持っていた！妖精国の女王オナーとダーナはある約束をかわす。その約束を胸に旅立つダーナだが、最終的に知ったことは思ってもいなか

ったことだった…。ファンタジーとは、現実を救うことだと思う。ある一定の側面の物事しか考えられなかった私は、ファンタジーを読み、一定の側面だけでなく、他の見方でも物事を考えることが出来るようになった。ダーナのような冒険をした。勇気を持ちたい。私はダーナにあこがれる。ページをめくると、妖精国の幻が見えてくるはずだ。（小6・碧丹）

REPORT 図書館友の会けやき総会

図書館懇談会とボランティア交流会

2018年6月11日

2018年度 けやき総会

会員12名と、来賓として市村左京図書館館長と大藤左京区社協事務局長にお越しいただき、総会を開催しました。

市村館長より「2016年に3名2017年に5名の異動で総替えとなりましたが、今年度は移動もなく職務を遂行しています。社会教育会館分館時代から数えて40年という節目の年になり、記念行事を予定しています。」とご挨拶頂き、また大藤事務局長からは「けやきの20年目おめでとうございます。子どもから大人まで本の楽しさを伝えてもらいたいと思います。本が好きで、子どもに絵本の読み聞かせをし図書館にも通っています。携帯もあります。図書は大事だと思っています。けやきの活動に協力していきたいと考えています。」との言葉をいただきました。

けやきの永井代表は「けやきも20年目となりました。情報公開を求め利用者の声を届ける活動を続けてきました。図書館には、ハード、ソフト両面にわたり多くの意見を取り入れて頂きました。引き続き活動を続けていき、見守り、協力をしていきたいと考えています。当初の図書館に対する思いや願いを継続していくために、20年を区切りに振り返り、今後の発展を話し合っていきたいと思います。」とこれまでを振り返り、抱負を語りました。

その後、2017年度の活動報告・会計報告が承認されました。現在の会員数は86名。活動報告に関して、以下のような意見がありました。

・「読み聞かせ交流会」は参加校が減っているので、情報伝達の仕方に工夫が必要。

・「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」には、数年前から左京区の市立3保育所から保育士さんが来られ、保育所の子育て支援活動の一環として育児相談などにも当たってくださりお母さんたちに好評だった。ところが、近年2保育所が民営化されたため、来てくださる回数が減った。図書館にそのような場があることに意義があったのに残念である。

・「おたのしみ会」では、この19年間で担当する司書さんとボランティアとの協力関係がより深まり司書さんからの企画もどしどし出てきている。

・ニュースレターは、日常の活動に紛れてしまいがちな友の会の使命を文字にして発信していることに意義がある。

次に2018年度予算と活動方針「図書館との協働を、さらに深め、継承するために、けやきの活動を再点検する。」が承認されました。

(北園)

第14回図書館懇談会

図書館から市村館長と神田司書に出席していただき、けやきのメンバー13名と懇談しました。

まず館長から「ニュースレターけやき最新号を読んで、けやきの関わってきた事業について19年間の経緯を知ることができた。今の事業を協力して続けていくとともに、新しい企画などを考えるヒントになるような懇談会にしたい。」とご挨拶頂きました。

次に神田司書から左京図書館開館40周年記念事業についての説明がありました。7月の夏休み工作教室・万華鏡づくり、8月の夏の夜のおはなし会、10月のビブリオバトル、11月の大人のための工作会・御朱印帖づくり、さら

井上ひさしから、娘へ

57通の往復書簡

井上ひさし・井上綾著 文藝春秋 2017年

井上ひさしさんが亡くなる5か月前まで『月刊いちかわ』で連載されていた、次女・綾さんとの往復書簡です。当時、精神的に弱りきっていた綾さんを心配し、優しく話すように語られ

る父の言葉。「甘やかさず、でも高圧的でもない言葉を贈り物のように」受けとる娘。「人間はそんなに弱くないぞ。投げやりにならず、乱暴な気持ちにもならないで、しっかり働いて、自分の人生から逃げ出しては駄目だぞ」ほがらかで力強い言葉は、人を励ます力を持っています。

(左京図書館司書・前田淳子)

に左京文学散歩の第2弾の発行など、多彩な行事を予定。いずれも、好評なら恒例行事にしたいとのことでした。

続いて、質疑応答がありました。主な質問と回答は以下の通りです。

Q：けやき A：図書館

Q：左京図書館読み聞かせ交流会について。右京中央図書館が実施していた学校図書館ボランティアの研修が今年度からなくなるかもしれないと聞いた。左京の交流会に、左南支部以外の人が参加するのは問題があるか？

A：第1回、第2回の講座への参加は問題ない。第3回目の交流会は30人前後に収まるのであれば、地域外の方でも可能ではないか。

Q：秋に中央図書館でわらべうた絵本の原画展とワークショップが実施されるが、左京図書館でも原画展ができないか。

A：開催時期の都合がつけば、館内で実施できる。恒例の図書館とけやきの共催イベントとして実施しても。

また、けやき共催の講演会の演者について神田司書から提案があり、中でも京都の出版文化について、専門書出版社・古書店などの社員、書店員による座談会はどうかといった案に参加者も魅力を感じました。

さらに神田司書から、近隣の少年鑑別所より要請があり、はじめて所内でブックトークを行ったとのこと。団体貸出として、資料も貸し出し、好評だったので、定例化する予定。「打って出る図書館」をキャッチフレーズに、図書館の外に活動の場を広げていきたい、とのことで、けやきニュースレターでもこの取り組み紹介しようということになりました（今号5ページをご覧ください）。

けやきの会員アンケートにあった「ホームページリニューアルで何が新しくできるようになったのか、分かりやすく教えてほしい。」「ホームページリニューアルより複本購入に予算を使って欲しい。」という意見も紹介しました。（澤田）

第5回 左京図書館ボランティア交流会

総会後の午後1時から1時間余り、左京図書館に関わるボランティアの方々の交流会がありました。参加者は、高見副館長、「図書館ボランティア」「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」「であいの森」「図書館友の会けやき」より、全部で12名でした。

「図書館ボランティア」は左京図書館で随時募集、返却・書架整理が主な仕事。登録12名ほど、参加日は個々によって違う。一堂に会する機会はないとのこと。「来られるときにいつでも」ではなく、一応事前に来られる日を申請する左京図書館のやり方だそうで、そのほうがしつかり参加できるのだそうです。エプロン・名札を着用しており、利用者から尋ねられることが多い、うまく答えられない時はカウンターにご案内するとのこと。フロアに出ている方の方が利用者は声をかけやすいので、「利用者の声をつなぐ重要な役割ですね」という声も上がりました。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーターからは、館内のみ利用の本を紹介した際、同じ本を借りたいと言われても書架にない時は申し訳ないと思う。赤ちゃんを連れて図書館へ来ることに批判的な声があったが、今は、立ち止まって聞いてくださる方もあり、好意的な様子が見られる。ひどく泣いていたりする時は「どうしましたか」と声をかけることもある。リピーターの方・父親の参加も見られる。親子ごとに読み聞かせるという形態を大切にしたい、といった感想や意見が出され、高見副館長は「どの館も赤ちゃん絵本の取り組みをしており、本館の司書も体験しておく必要があると考えている」と話されました。

「おたのしみ会」に協力している「であいの森」のメンバーからは、移転開館当初から司書さんと一緒に活動し、事前の打ち合わせをしている。4月・12月のお楽しみ会には保育士さん・子ども文庫や小学校などのボランティアにも参加してもらっているとの報告がありました。

また高見副館長から、「司書が研修会で刺激を受け、40周年記念行事などで積極的な意見がよく聞かれる、とお話がありました。

交流会そのものについて、けやきから「それぞれの活動の場で聴く利用者の声を交換する場となっている。このような場を大切にしたい。活動しながら学ぶことが多い。」との意見が出されました。（田中）

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日 11:00）に協力。
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30 ～ 12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者をつなぐけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00 ～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は年会費 500 円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914 番
口座名称 図書館友の会 けやき

◎年会費はニュースレターの印刷および郵送費の一部に充当します。

◎活動費の寄付も歓迎。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

けやき情報版

左京図書館絵本学習会

時：毎月第4金曜 午前10～12時（3月7月12月は第2金曜）

所：左京図書館の上3階会議室

テーマを決め、図書館から本を借りてその場で読み合っています。読んでもらう喜びが味わえ、新たな発見も生まれます。おはなし会活動などの情報交換も。年内は11月30日、12月14日に開催。どなたでも、どうぞ気軽に、ご参加ください。

大人のための工作会

「御朱印帳を作る～左京ご利益本めぐり～」

時：11月17日（土） 午前10時30分～12時

所：左京図書館の上3階会議室

対象：大人（15歳以上）定員：20名（申込み先着順・無料）

大人のための語りを楽しむ会

時：12月1日（土） 午後2時～3時30分

所：左京図書館の上3階会議室

京都お話を語る会のメンバーが、日本や外国の昔話や創作のお話を語ります。ゆったりと豊かなひとときをお楽しみください。子どもさん들도どうぞ。

編集後記

今号の特集で紹介した修学院子ども文庫の文集所載の報告で左京に図書館を求めた市民の切実な願いを知ることができました。移転開館当時の私たちけやきのメンバーの思いとも重なります。図書館がなかった当時を思うと、図書館は当たり前のように存在するのではなく、市民が求め、育て、支えてこそ、と思いました。（島崎）

今号で「利用者から見た左京図書館の40年」を特集、左京区民の図書館への熱い思いを再認識した。左京図書館は、移転後毎年来館者数・貸出冊数は全20館中、3中央図書館に次いで4位。利用促進の努力が実った結果ともいえるが、もともと左京の図書館に対するニーズは、赤ちゃんはじめ子どもから高齢者まで、非常に高い。それぞれのライフステージで図書館が果たす役割は本当に大きい。現図書館の更なる充実とともに、やはり、「市北東部に中央図書館を」という声はあげ続けなければ、と改めて思った。（永井）

◇けやき 第57号 2018年10月30日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字：吉政 富美子 デザイン：伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

<http://totomo-keyaki.com>